

# くやしさを怒りにかえて闘い続ける 32名の仲間水「60・3」基地廃止の蘇我をあとに

## 蘇我支部、24年の歴史に幕閉じる

### 万感胸に、3月20日「旗おろし」大会

3月20日、当局の合理化—人減らし政策の強行により、「60・3」をもって派出所化となつた蘇我機関支区において、蘇我支部の旗おろし大会が開催された。他区転勤となる組合員32名は、くやしさを怒りに変え、新たな職場で闘いぬく決意を胸に、永年住みなれた職場をあとにした。

全員が新たな職場で闘いぬく

蘇我支部は61年2月1日、当時の千葉機関区の廃止に伴い、新たに開設された蘇我機関区において結成された。SL全盛時代、内、外房線を疾走するSLの基地として、管内乗務員のせん望の的であると同時に、組合運動も活発に展開され、多くの役員を輩出してきた。

ところが、国鉄「赤字」を理由とする合理化—人減らし攻撃の激化の中で、昨年8月、全国一〇一基地廃止の一つとして廃止が提案された。支部を先頭とした廃止絶対反対の闘いにもかかわらず、「60・3」をもって「派出所」化を余儀なくされ、24年間の歴史にピリオドをうつこととなった。

しかし、精一杯闘いぬいた組合員に敗北感はない。全員が希望通りの転勤をかちとり、新たな職場で闘いぬく決意をあらたにしている。

団結して3・24に結集しよう  
—大塚支部長が最後のあいさつ—



本当につくろうさまでした。(右)大塚支部長、菰田副支部長、茅野書記長、に熱い拍手が送られた。(左端は司会の小幡氏)



全支部からも代表が激励にかけた。



大会は、支部組合員はもとより、本部、全支部の代表者が出席し、構内検査詰所で開催された。小幡氏の司会により、菰田副支部長が開会を宣言、茅野書記長から資格審査結果が発表され、議長に宇佐美氏を選出してすめられた。冒頭、あいさつにたつた大塚支部長は「私達執行部は一年間、団結をもって困難をのりこえて組合活動をしてきた。残念ながら、3・14をもって24年の歴史をもつ蘇我支部がその使命を終えることを報告する。国鉄情勢は厳しいものがあり、合理化攻撃の中で果敢な闘いを展開してきた。労働者が団結をなくしたら力はゼロに等しい。その意味からも3・24三里塚に結集することをお願いして支部長として最後のあいさつとする」と述べた。つづいて本部を代表して布施書記長がたち、支部組合員の労苦をねぎらうとともに、とりまく情勢について報告し、最後に「基地廃止のくやしさを怒りに変えて新たな職場で闘いぬくために、3・24五割動員を実現しよう」と訴えた。

全員で組合歌を合唱し幕を閉じる

全支部の代表から激励のあいさつを受けた後、「経過報告」「決算報告」が提起され、直ちに確認された。大会は、全員でスクラムを組み、組合歌を合唱し、団結ガンバローをもって幕を閉じた。構内での記念撮影の後、懇親会を行い、動労千葉の組合員として誇りをもってがんばりぬくことを決意し、散会した。